第5回建設産業戦略的広報推進協議会 議事概要

日時：平成26年6月4日（水）10：00～11：30

場所：（一財）建設業振興基金 7階会議室

- 顧問、アドバイザー及び委員より、建設産業戦略的広報推進協議会同種の活動の全国展開に向けた働きかけ、広報イベントの推進及び総合HP「建設現場へGO!」の充実化について、以下のような発言があった。

1. 同種の活動の全国展開に向けた働きかけについて

（関東地方整備局より、広報活動の一環として取り組んでいる有料現場見学会について説明後、自由討議を実施）

- ・ 関東地方整備局としては、今後は旅行会社と連携して現場見学を実施していくことがメインになるのか。それとも、これ以外の現場見学も実施していくのか。
- ・ 各事務所で従来から実施している現場見学と平行して実施していく。旅行会社との連携は情報発信や企画力が有効であるため、本年度も試行的に行っていく。
- ・ 各事務所で実施している現場見学を含めた情報を、一元的に管理しているか。総合HP「建設現場へGO!」の充実化のため、現場見学会の情報を提供してもらうことは可能か。
- ・ 可能であれば、関東地方整備局で取組んでいる情報を総合HP「建設現場へGO!」で発信していきたい。関東地方整備局の取組みの発信を機に他の地方整備局へもに派生出来れば良いと考える。
- ・ 有料現場見学会については、関東地方整備局内の企画会議でフィールドについて各事務所より提供を受けているので一元的に管理している。無料現場見学会についても取組みについて情報を集めることは可能だが、情報公開日程等の都合があるため、検討させて頂きたい。
- ・ 関東地方整備局は現場見学の実施の他に、ビデオ撮影講座を実施し、受講した職員が撮影した現場のビデオを広報に使用しているときいたが。
- ・ 災害時において、作業や調査に没頭してしまい、記録として残すことがなかったため、広報課の中に活動記録係を2年前に設置した。プロから撮影方法の講習を受けるセミナーを実施し職員の技術力・撮影力を高めているところ。

- ・映像は公開されているか。
- ・昨年度の伊豆大島の災害活動を撮影した映像は、各地の民法事業者へ提供し放映してもらった。
- ・関東地整に取り組んでいる現場見学と併せて言うと、国民の方々が興味を持っている現場を動画で発信できると良いのではないかと。徐々に一般の方々の見方も変わってきてはいるが、公共工事についてはネガティブな印象にとられることがあるため、注目される現場や公共工事について動画で発信できると良い。是非、関東地方整備局でもそのような情報発信の方法について検討して頂きたい。
- ・現場見学を実施するにあたり、業界団体の立場から注意している点はどこか。
- ・現場見学会に申し込んで頂き、現場を知ってもらうだけでなく、参加者の方々にプラスとなるような情報を発信できるように務めている。また、現場を見学するため、不測の事態が発生しないように常に周りの安全を心掛けている。
- ・全国展開に向けた働きかけを本協議会で検討していくにあたり、発注者と受注者双方の協力があって実現するものであるため、持ちかける側としてはアレンジメントした形で相手にとって受けやすい条件・方法等を本協議会のノウハウとして身に付けていくことも必要なのではないかと考える。

2. 広報イベントの推進について

(工業高校キャラバン(仮称)の開催について意見交換を実施)

- ・工業高校キャラバンを実施する際には、最近の建設産業政策や本協議会の活動について説明するだけでなく、総合HP「建設現場へGO!」でも生徒が関心を持っている事項について既に取り上げられていると思うので、どこのページをみればそういった情報が得られるのか紹介し情報発信することも必要。また、キャラバンは工業高校の生徒と実際に接する貴重な機会であるため、総合HPの充実化を今後検討するにあたり、生徒達がどういった情報の掲載を求めているかヒアリングを行う場とする必要も必要。
- ・ヒアリングはキャラバンがニーズから離れたプログラムととならないよう実施前に行うべきではないか。事務局としてプログラムを検討する前に工業高校へ行き、生徒達がどんな情報を必要としているのか聞いてほしい。その際には、事前に総合HPについて閲覧してもらい、足りていない情報を教えてもらうようにした方が良い。この事前調査は、学生達が建設業に対する考え方を変えるきっかけにもつながるので実施するべきである。

- ・建設現場は危険であるイメージを持たれがちのため、建設現場は「安全」であることもキャラバン内で伝えたらどうか。本協議会の説明については、HPを見てもらえれば分かるため、説明は長く要らないのではないかな。
- ・団体としても、建設業しんこうの P.10 に紹介している「みんなの建設業 Q&A」を発行し、高校生に建設業界を知ってもらうような取り組みをしているところだが、生徒達がどういった点に興味があるのか常に模索している。
- ・工業高校にヒアリングを行う際は、校長だけでなく先生方にも意見を頂戴した方が良い。生徒に対しては、実際の現場の声ややりがいについても伝えられる場となった方が良い。総合HPについては、生徒が知りたい情報を発信すれば、先生方も授業に役立ててもらえたりといった可能性があるため、知りたい情報を工夫して発信していく必要がある。
- ・本協議会は建設産業の魅力をアップすることを目的としているので、工業高校生が建設業に興味があるのかをまず知る必要がある。岐阜の建設業協会で工業高校で先輩社員を集めて座談会等を行ったことがあるとのこと。そういった情報を活用してプログラム上で実施することが必要である。
- ・生徒達は「私たちの主張」に興味を持っている。実際に仕事に携わっている人々の生の声を聞きたがっている。
- ・キャラバンの対象者は学校の生徒や先生だけでなく、保護者も対象にしても良いと考える。対象者に応じ色々なバリエーションが必要になるのでリサーチを実施していく。
- ・保護者も対象にするプログラムについては、たしかに国の取り組みや今後の方針について紹介し伝えることも重要である。
- ・実技演習以外にも参加者の印象に残るようなことを実施した方が良い。例えば、若い技能者の方との意見交換等。
- ・生徒の目線に合わせて実施すべきであるため、実技演習も色々な職種の内容で実施した方が良い。
- ・実際に働いている若い方と生徒が交流できるような仕組みを作ることは重要である。キャラバン実践日は、生徒と講習に来て頂いた働いている人の昼食を合同にするなど、交流できる時間を増やす等の工夫も必要。

3. 総合HPの充実化、ロゴマークの活用について

- ・ 本日議題に上がった現場見学会を含めたイベント情報と就職情報の掲載、HP上での双方向のコミュニケーションの実施を重点的に進めるべき。
- ・ HPを作って終わりなのではなく広く知ってもらうことが必要。団体や協会のHPからも閲覧できるようにバナーをリンクさせるべきである。ロゴを覚えてもらうことにもつながる。
- ・ ロゴマークの普及としては、記事の内容にもよるが専門紙にロゴマークを掲載してもらうことは可能とのことなので今後検討が必要。
- ・ HPの普及については、今回の会議資料となっている作文コンクールのパンフレットでも応募用紙のダウンロード先を総合HP先にする等工夫しているところ。引き続きロゴマークの普及と合わせて検討を行う。

以上